

ま え が き

本書は、東アジア地域をおもな対象として、貿易統計を利用して代表的な貿易指数を計測し、データベースとして取りまとめたものである。

近年、自由貿易協定や多国籍企業による直接投資を通じた国際分業の進展により、世界の貿易は急速に拡大しつつあるが、なかでも東アジア地域の貿易の拡大は世界全体を上回る伸びをみせている。その背景には、1990年代後半からこの地域で進展してきた貿易自由化に伴う国際分業の進展がある。さらに、2015年10月に環太平洋パートナーシップ（Trans-Pacific Partnership: TPP）協定交渉が妥結したほか、2015年末にはASEAN経済共同体（ASEAN Economic Community: AEC）が発足し、この地域における貿易は、今後いっそう活発となり、経済的な相互依存関係が深まることが予想される。

このような背景から、東アジアを中心とする国・地域について、1990年代後半から直近までの期間をカバーした代表的な貿易指数を計測し、貿易構造や国際分業関係の変化を分析するための基礎的かつ汎用性のあるデータベースとして整備することには一定の意義があると考えられる。

貿易指数データベースについては、これまでも主要な国際機関などが作成・公表しているが、本書は対象地域を絞り込むことにより、これらのデータベースとは以下の点で異なる特徴をもっている。第1に、従来のデータベースよりも詳細な品目分類に基づく貿易指数を作成していることである。それにより、東アジア地域について、より詳細な分析を行うことを可能としている。第2に、ASEANなどの統合された経済圏について指数を作成し、各経済圏における相互依存関係の深化や他の国・地域との貿易構造や分業構造の変化について観察することも可能になっている点である。

そのほか、本書のおおきな特徴として、貿易指数の計測結果とその解説に加え、種々の論考をあわせて掲載している点が挙げられる。計測した貿易指数の理解に資するため、指数の背景にある東アジア諸国の経済発展や貿易構造変化の状況、指数に関する技術的検討および計測結果の読み取りのほか、貿易統計以外の統計として、アジア国際産業連関表を用いて東アジア地域の国際分業構造の変化に関する分析を行った結果についても報告している。

本書は、2013年度から2014年度にかけて組織されたアジア経済研究所の「貿易指数データベースの作成と分析—東アジア地域を中心として—」研究会の最終成果である。

研究会の実施に際しては、外部委員として佐野敬夫氏（元岐阜聖徳学園大学教授）、長田博氏（帝京大学教授・名古屋大学名誉教授）、福井幸男氏（関西学院大学教授）の各氏にご参加頂き、データベース作成および原稿執筆にご協力頂いた。

なお、本書の審査過程においては、匿名の所内レフェリーから、丁寧かつ有益なコメントを頂いた。記してお礼申し上げる次第である。最後に、本書の編集全般にわたってアジ研の出版企画編集課の井村進氏に大変お世話になった。あわせて感謝申し上げます。

2016年1月

編 者

